

蜀帝国を支えた不世出の大軍師

# 諸葛孔明

tateishi yu

立石優



幻冬舎文庫

---

しょうかつこうめい  
諸葛孔明

たていしゆう  
立石優

平成13年3月25日 初版発行

発行者——見城徹

発行所——株式会社幻冬舎

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-9-7

電話 03(5411)6222(営業)

03(5411)6211(編集)

振替00120-8-767643

印刷・製本——株式会社光邦

装丁者——高橋雅之

万一、落丁・乱丁のある場合は送料当社負担で  
お取替致します。小社宛にお送り下さい。  
定価はカバーに表示してあります。

Printed in Japan © Yu Tateishi 2001



幻冬舎文庫

---

ISBN4-344-40084-4 C0193

H-4-1

---

# 諸葛孔明

立石 優



幻冬舎文庫



# 諸葛孔明◎目次

序の章 11

昇龍の章 17

運命の地・荊州けいしゅう 18

臥竜・孔明 38

三顧の礼 61

博望坡の戦いはくぼうは 85

逃避行 117

長坂橋ちようはんきよう 146

赤壁の章

175

江東の孫権

176

曹操百万の大軍

188

蜀呉の同盟

207

連環の術策

221

火攻の謀計

259

巴蜀を望むの章

289

荊州全土を手中に

290

巴蜀への道 343

蜀帝国の章 393

孔明の善政 394

蜀帝国の成立 418

南蛮征討 449

北伐の章 469

出師の表 470

泣いて馬謖を斬る 495



後出師の表 517

司馬仲達との対決 533

宮中の患 551

星落秋風五丈原 570

関係年表 602

あとがき 603

おもな参考文献 606

# 《おもな登場人物》

## 〈蜀〉

● 諸葛亮……………字は孔明。

智略縦横、三国鼎立策を劉備に説き、蜀帝国を築かせる。

● 劉備……………玄德。

漢宗室の血縁。関羽・張飛と義盟を結び、蜀の皇帝となる。

● 関羽……………雲長。

武勇と信義の男。桃園の義盟により劉備の義弟となる。

● 張飛……………翼徳。

万夫不当の豪傑で、勇猛かつ素朴。義兄弟の末弟にあたる。

● 趙雲……………子竜。

忠誠無比、独り敵中を駆けて劉備の子を救う。知勇兼備。

● 徐庶……………元直。

孔明の学友。劉備に仕え、去るにあたって孔明を推薦する。

● 龐統……………士元。

荊州の名士。鳳雛と評される。益州攻めで若くして戦死。

● 黄忠……………漢升。

老将ながら武勇に優れ、五虎將軍の一人に数えられる。

● 魏延……………文長。

孔明は叛骨ありと断じたが、勇猛さゆえに用いられる。

● 馬超……………孟起。

馬騰の子。西涼の錦將軍と謳われる。五虎將軍の一人。

● 姜維……………伯約。

才能と勇氣を孔明に認められ、後継者と目される。

## 〈魏〉

● 曹操……………孟徳。

魏の開祖。劉備の生涯の強敵。乱世の姦雄と評された。

●曹丕そうひ……………子桓し かん。曹操の後嗣。後漢の献帝けんていに禅譲を迫り、皇帝の位に就く。

●曹真そうしん……………子丹し たん。本姓は秦。曹操に育てられた。大都督だいととくとして孔明と戦う。

●夏侯惇かこうとん……………元讓げんじょう。矢で射られた自分の左目を食べたという猛将。

●夏侯淵かこうえん……………妙才みょうさい。惇の従弟。猪突猛進型の武将。定軍山の戦いで戦死。

●司馬懿しばい……………仲達ちゅうたつ。魏きつての智将で孔明の好敵手。曹丕の信賴が厚かった。

# 〈吳〉

●孫權そんけん……………仲謀ちゅうぼう。江東孫堅の次男で孫策の弟。人をよく用い、吳の帝位に就く。

●周瑜しゅうゆ……………公瑾こうきん。名門の貴公子。赤壁の戦いでは、吳の大都督をつとめる。

●魯肅ろしゆく……………子敬し けい。劉備との交渉役をつとめ、次第に孔明に好意を抱く。

●諸葛瑾しよかつきん……………子瑜し ゆ。孔明の兄。若くして兄弟別離し、江東に行き孫權に仕える。

●陸遜りくそん……………伯言はくげん。若年ながら智略の人で、荊州を蜀から奪う功劳者である。

# 〈その他〉

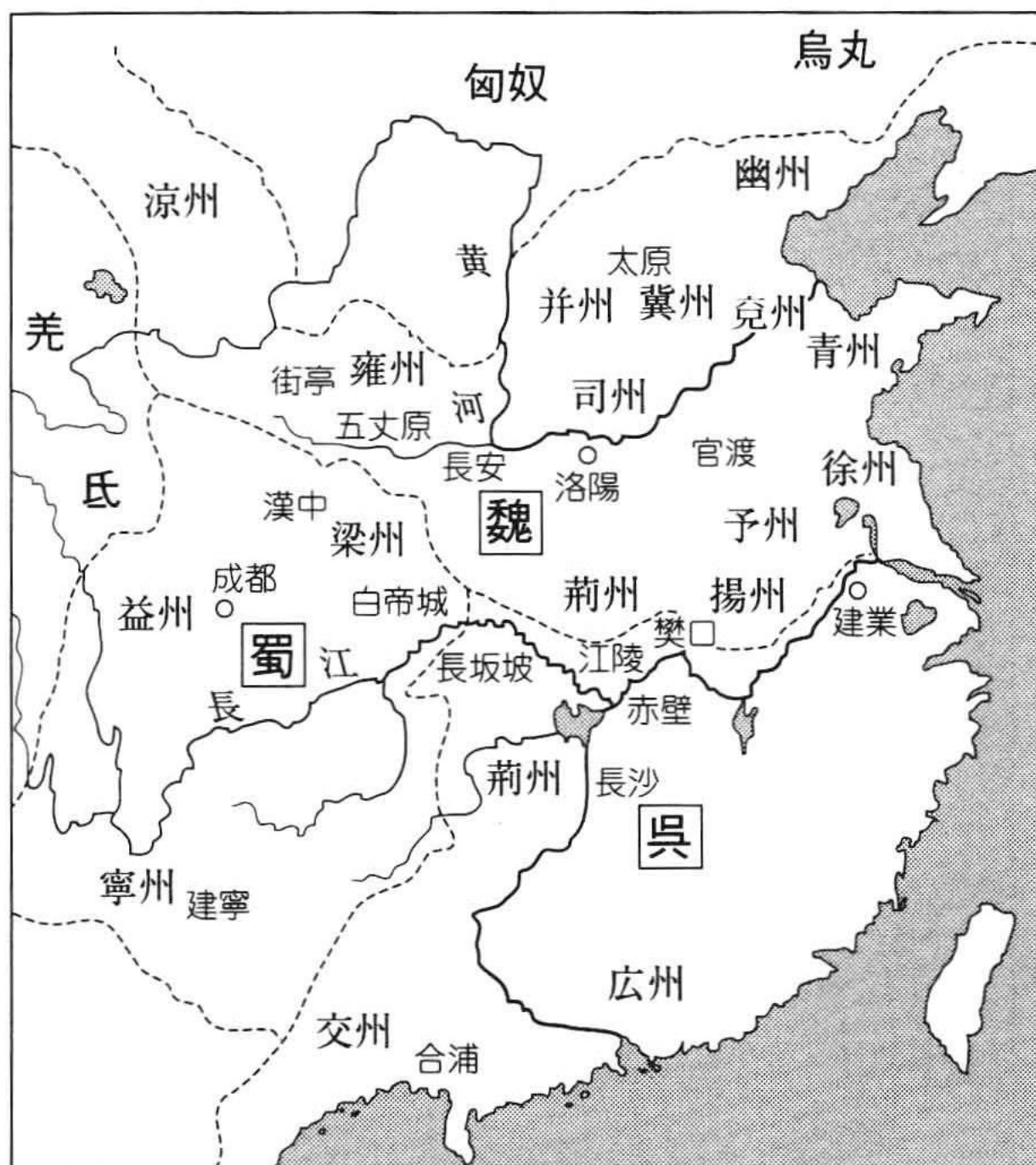
●劉表りゅうひょう……………荊州の牧ぼく（長官）。劉備を見込み、荊州を与えようとする。

●劉琦りゅうき……………劉表の長男。弟の琮そうに後継の地位を奪われ、江夏の太守となる。

●劉璋りゅうしょう……………益州の牧。凡庸で漢中の五斗米道を恐れ、劉備に救援を求める。

●写真提供——毎日新聞社  
●地図作成——新井トレス研究所  
●編集協力——(株)元氣工房

# 序の章



▲ 三国鼎立の形勢

濛々たる戦気が、長江（揚子江）の空を覆っていた。十里四方、水鳥の影すらない。凶暴なる濛気は、烏林（湖北省嘉魚県）の岸辺を埋め尽くす三千余の軍船から立ち昇るものだ。各船に掲げられた色とりどりの旌旗・幡旗は、江上に林立し、水面を華やかに彩っていた。中央の本営は黄旗を掲げ、前衛の船隊は炎のような紅旗を連ねている。左翼は青旗、右翼は白旗、後衛は黒旗だ。

舷々相摩する軍船の群れは、丈夫な綱で連環され、幅広い板が張り渡されている。兵士たちは、さながら陸上を歩くように、自由に各船を往来していた。大船団は水上の要塞と化していたのだ。

江東を征服すべく、長江を下ってきた曹操（魏）の水軍であつた。

曹操……中原を制したこの稀代の英雄は、すでに河北の名家・袁紹一門を滅ぼし、西の荊州（湖北省）もまた併呑して、雄大な版図を手中にしていた。天下統一の野望を賭けて、いま曹操は南下してきた。

これを迎え撃つのは、江東（呉）の風雲児・孫権である。大都督（総司令官）の周瑜は孫権の命を受け、練達した呉の水軍を率いて、長江を溯上してくる。

両軍の激突は、名高い「赤壁の戦い」として、中国史上に残るものとなった。

「赤壁」（湖北省嘉魚県）……激戦の場所は、そう呼ばれている。長江沿岸の切り立つた岩崖が、赤味を帯びているところから、その地名が付いた。

西のかた夏口を望み

東のかた武昌を望めば

山川相繆うて、鬱平として蒼蒼たり

これ孟徳（曹操）の周郎（周瑜）に困しめられしところに非ずや

その荊州を破り 江陵を下り

流れに順つて東するにあたって

舳艫千里 旌旗空を覆う

酒を酌み江に臨み

槩を横たえて詩を賦す

固より一世の雄（曹操）たり



蘇東坡<sup>そとうば</sup>の「赤壁の賦」である。

優れた武将でありながら、詩人でもあった曹操は、決戦を目前にして、「帥<sup>すい</sup>」の旗を掲げた船上で、即興の詩を吟じた。その情景を詠んだものである。

建安十三年（西暦二〇八）の初冬、長江は風浪が高かった。

赤壁の戦いの前日のことだ。

呉軍の陣営から、するすると一艘の軽舟が抜け出してきた。軽舟は折からの追い風を帆に孕<sup>はら</sup>み、矢のように長江を滑り進む。

それと気づいた呉の軍船が一隻、あわてて後を追う。岸边にもまた数十騎の騎兵が駆けながら、

「もどせ、もどせ」

と口々に呼ばわった。

呉船の舳先に立って、孫権の将・徐盛<sup>じよせい</sup>が叫んだ。

「先生、待ちたまえ。都督が呼びである。なぜ我が陣営から脱走されるのか」  
声に応じて、軽舟の船尾に、白衣をまとった瘦身の青年がふわりと現れた。